

[31_4] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
31(4)

<https://doi.org/10.15017/1470446>

出版情報 : 図書館情報. 31 (4), pp.31-38, 1996-03-22. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :



九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 31, No. 4 (1996)

新入生特集号

目 次

- ・新入生に薦める本
- ・ V. E. フランクル著『夜と霧〜ドイツ強制収容所の体験記録』……………32
- ・ H. D. ソロー著『森の生活〜ウォールデン』……………33
- ・ 桑原武夫著『文学入門』……………34
- ・ 図書館利用案内……………35
- ・ 特別図書紹介……………37
- ・ 自著紹介……………38

ごあいさつ

附属図書館長 小山 勉

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。お祝いを申し上げるとともに、心から歓迎いたします。

憧れの九州大学に入学された今、これからの大学生活に希望と期待で胸を膨らませておられることと思います。大学では大いに勉強し大勢の友達をつくって、有意義な学生生活を送っていただきたいと願っています。

大学での勉強は高校までの一方的な受け身の立場で教えてもらうのとは違い、自主的に取り組んでいくことが重要となります。附属図書館では皆さんの自主的な勉強の支援をするため沢山の本を揃えて、多くの方の利用を待っています。

九州大学附属図書館は、中央図書館、医学分館、六本松分館及び学部・研究所等に設置された図書室で構成され、全体で約310万冊の膨大な蔵書量を誇る全国屈指の図書館です。新入生の皆さんが図書館を充分活用し、勉学の成果を挙げられることをつよく希望します。

図書館では、館報として「図書館情報」を発行していますが、今回「新入生特集号」を編集し、新入生の皆さんのための記事を掲載します。「新入生に薦める本」で推薦された図書はぜひ読んでいただきたいと思います。また、図書館案内は利用の際に参考にしてください。

図書館は、学生諸君が静かに典籍をひもとき、思索にふけり、自ら教養を高める大学の中のオアシスでもあります。新入生の皆さんが広く読書に親しみ、人生の視野を広げ、幅広い知識を習得し、人格の陶冶に努められることを希望します。

新入生に薦める本

V.E.フランク著『夜と霧～ドイツ強制収容所の体験記録』

立石 潤

新入生諸君に推薦する本として、まず頭に浮かんだのが、医師になりたての頃に読んだフランク著、霜山徳爾訳「夜と霧」(フランク著作集1)一みず書房(医学分館図書番号BF/F831/1980)で、原名は「強制収容所における心理学者の体験」である。著者はウィーンの子精神科医であったが、ユダヤ人であるためあの悪名高いアウシュビッツへ送られ、奇蹟的に生きのびて1947年にこの本を出版している。日本語版ではナチの強制収容所に関する解説と写真が多数入れられており、何回読んでも暗い気分させられる。日本の関与した戦争と、みじめな戦後を体験しなかった若い諸君には、おそらく読むに耐えられないであろう。省略して本文から読んでも良い。それも暗くて長くて読めないという人には、第八章「絶望との闘い」だけでも読んで欲しい。限りない虐待と飢えと日常化した死のなかで、生きて釈放される希望のない収容所で、人は如何に生きられるかをこの章は物語っている。

もはや人生から何もかも期待出来ないと思う者には、死しか残された道は無い。「ここで必要なのは生命の意味についての問いの観点変更なのである。すなわち人生から何をわれわれはまだ期待出来るかが問題なのではなくて、むしろ人生が何をわれわれから期待しているかが問題なのである。……この人生とは決して漠然としたものではなく、各人にとって唯一つで一回的で、具体的な現実の中に含まれている。……その運命に当たった彼自身がこの苦悩を担うということの中に、独自の業績に対するただ一度の可能性が存在する……」とフランクは語りかける。

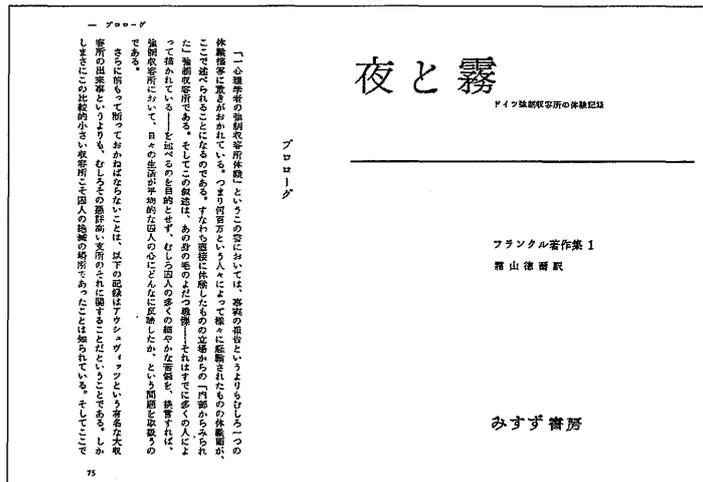
アウシュビッツのような苛酷な状況下でこの立場を貫き通すことは、普通の人間には無理かもしれない。ましてや神を持たない者にとっては。その場合でもわれわれは、この現実下に何が出来るかを探さねばならない。アウシュビッツの状況は決して過去のものではない。平成7年12月13日付

の朝日新聞夕刊の素粒子欄に曰く、「東アフリカで一大虐殺との情報あり、いまなお真昼にも渦巻き続ける夜と霧の奥に……」とある。また阪神大震災によって家族も家もすべて失なった人にとっても、癌に侵されて死を待つのみの人にとっても、現実にはアウシュビッツに近いものかもしれない。

この状況下でもわれわれは愛する人達や周囲の人達を悲しませぬためにも、自殺を思いとどまることは出来る。そのことを本書は教え、ともすれば絶望に押しつぶされそうな際に、生きる勇気をわれわれに与えてくれる。

次にもっと具体的に、患者の死と向き合う職業を志す人には、キューブラー・ロス著川口正吾訳「死ぬ瞬間」(On death and dying 読売新聞社、BD444/K/1973)がある。この書は死に直面した患者の心理と、それにかかわる医療従事者の心がまえを説いたものである。この著者には他にも「新・死ぬ瞬間」(On children and death)や「死ぬ瞬間の対話」(Questions and answers on death and dying)などがあるが「死」を治療、看護の対象として取扱ったものとして貴重である。さらにわれわれに自分自身の死についても考えをまとめる機会を与えて呉れる。それが出来る人が真に死の治療、看護が出来る人であると思われる。

(医学分館長)



所蔵館

中央図書館 030/フ/14

医学分館 BF/F831/1980

六本松分館 945.9/F44/1

新入生に薦める本

H. D. ソロー 著 『森の生活～ウォールデン』

合山 究

コンピューター技術をはじめとする現代科学の発達、その成果もさることながら、しばしば指摘されるように、社会を落ち着きのない不安定なものにし、人間の心に不安感や焦躁感をつのらせ、精神的ストレスを増大させることも多い。機械を操るはずの人間が逆に機械に使役され、風や光や花の香りを感じる生身の人間としての身体感覚を喪失させ、人生を生きているという実感を稀薄なものにする。パソコンゲームやテレビゲームに熱中し、その種のものにしか楽しみを見出すことのできないような生き方が、果して真の人生といえるであろうか。人間にはもっと深い感動や心底からの充実感のともなった人間らしい生き方があったのではなからうか。

このような思いにかられるとき、私は米国の随筆家ソロー（1817-62）の『森の生活～ウォールデン』を読むことをお勧めしたい。この書は、「自然の子」たる人間の根源的な生存のあり方を探求した古典的名著の一つであり、岩波文庫や講談社学術文庫に訳書が入っているが、今日のように「物」に操られ、人間らしい感動や真の充足感を失いつつある時代においては、本書はわれわれの生き方に対する強烈なアンチ・テーゼとして、ますます大きな意味をもつと思われるからである。

『森の生活』は、作者のソローが28歳から30歳にかけての二年二ヵ月間、すなわち1845年7月から1847年9月に至る期間、マサチューセッツ州コンコードのウォールデン湖畔の森の中で実践した独居生活の体験を記録したものである。コンコードは、ボストンの西北約三十キロのところであり、当時は人口二千人程度の小村であった。ウォールデン湖は、今でも美しい姿をとどめているが、ソローは今から約百五十年前に、その湖畔の森の中に小さな物置小屋ふうの小屋を建てて住み、労働と自然観察と思索とにあけくれる、極度に単純化され簡素化された自給自足の生活を送ったのである。彼はなぜこのような世捨て人のような隠遁生活を送ったのであろうか。彼はいう、「私が森へ

行ったのは、思慮深く生き、人生の本質的な事実のみに直面し、人生が教えてくれるものを自分が学び取れるかどうか確かめてみたかったからであり、死ぬときになって、自分が生きてはいなかったことを発見するようなはめに陥りたくなかったからである。人生とはいえないような人生は生きたくなかった。生きるということはそんなにも大切なことなのだから」（「住んだ場所とその目的」）、と。“生きる”ことに対する何という気迫にみちた言葉だろう。彼はこのような自然生活を実践することによって、「人生を強く生き、人生の精髓を吸いつくそう」としたのである。ソローはすでにこのとき、物質文明や科学技術のもたらす弊害を予見し、人間の真の幸福は自然との触れ合いなしには得られないということを知っていたかのようである。

本書には、自然と人生に関するさまざまな真理や叡智や感懐が、「経済」「住んだ場所とその目的」「読書」「音」「孤独」「訪問者」「動物の隣人たち」「冬の池」「春」など十八の章に分けて語られている。アフォリズムふうの警句をまじえた詩的な文体は、本書を無味乾燥な自然観察記とは異なった文学性豊かな作品にしているが、ストレスの多い日々を送るわれわれにとって何よりもありがたいのは、自然のもつ量り知れない魅力が余すところなく説かれ、自然と共に生きる者の喜びが全篇にみちみちていることである。生活の中から「自然」が忘れ去られ、自然現象や人間存在を肌で感じるの少なくなった今日、われわれは本書を味読することによって「自然」の価値をもう一度見直し、「自然の子」としての人間存在を見つめ直す必要があるのではなからうか。

なお、ソローには、『森の生活』の他に、『メインの森』という同類の作品がある。『メインの森』は、本学の小野和人教授による訳書が講談社学術文庫に収められている。この種の書物に興味をおぼえた方は、『メインの森』もあわせ読むことを希望する。

（大学院比較社会文化研究科教授）

所蔵館

飯田実訳 1995（岩波文庫） 中央図書館で購入手続中

神吉三郎訳 1951（岩波文庫） 中央図書館 岩波文庫C-372~373 六本松分館 開架文庫棚

『メインの森』小野和人訳（講談社学術文庫）六本松分館 開架文庫棚

新入生に薦める本

桑原武夫著 『文学入門』

村田 豊久

いくらか自己認識が強まり、私とは何か、今後いかに生きるべきかなどを考え始めた頃、ふとしたことで出会った一冊の本が、その人の生涯の読書傾向に、いや極端にいえばその人の人生に与える影響ははかり知れないものがあるのではないだろうか。私の場合、それは桑原武夫の「文学入門」(岩波新書)だった。この本は昭和20年代後半から30年代にかけて当時の教養部学生には大変な人気の本の一冊だった。先輩の話仲間に入れてもらおうという動機から私もこの本を購入したが、読みはじめると著者の主張にすっかり魅せられ、一句一節を反芻して熟読し、またたく内にこの本の虜になっていた。

フランス文学者の桑原武夫にとっては、太平洋戦争中の思想抑圧と敵国文化蔑視の風潮は屈辱の体験であった。その鬱憤をはらすかのように、この本ではすぐれた文学が人生にどうして必要か、社会の停滞を打破するためにいかに役立ってきたかが、滔々と筆致されている。18歳の私にはまさに目から鱗がおちる感動であった。その後も何回か再読したがその都度あらたな感慨がわいてくる不思議な本である。先日も十年ぶりにこの本を読み直したが、この本を初めて読んだ40年以上前と同じ感興がこみ上げてくるのを禁じえなかった。「近代文学は、人生を思索するための一方法となっており、・・・そこに人間性の拡大ないし発見をふくむのはむしろ当然なのである。したがって文学は・・・新しい人生を創造しようとする心そのもの、つまり構成力を鼓舞する。」このくだりからうけた感銘も鮮明に覚えている。また「すぐれた文学とは、われわれを感動せしめ、その感動を経験したあとでは、われわれが自分を何か変革されたものとして感じずにはおれないような文学作品であるといつてよい。感動しうるためには、その作品はわれわれにとって再体験しうるものでなくてはならない。またそれがわれわれのインタレストをひき、感動させるといふことは、作者自

身が切実なインタレストをもって創作経験をしていることであり、また、その経験が苦悩にみちた真正の新しい経験だからである。そうした作品の経験を再体験することによって、われわれはこころのなかにおいてであるが、豊かで深い人生を新たに経験したことになる。それは一つの冒険といつてよい」という記述は40年前の私にはもう啓示に近いものであった。

それからすぐれた文学を読むことこそ人の生きざまを知り、世界への洞察を深めることと理解し、出来るだけ文学作品を読もうとした。それも桑原武夫の考えに従った選び方をした。特に巻末に掲載された世界近代小説五十選を読みあげようと強迫的になった。

この本に18歳で出会ったことは私にとってやはり幸運だったと思う。たしかにこの本によって、片寄っていたにしろ読書量は多くなった。人の人生への興味も啓発された。私が精神医学を専攻し、そして今は教育学部で生涯発達心理学を担当し、生涯という視点から人間を見つめなおそうという研究に携わるようになったのであるが、それもこの本から始まった文字の世界への彷徨と無関係ではないように思われる。

私の場合、この本からうけたインパクトはやや特異的であったかもしれないが、長い受験勉強を終え大学生活にはいることになった皆さんにもこの本との出会いはいろいろの刺激をもたらし、毎日の生活を、そしてこれからの人生について建設的な指針を与えてくれるだろう。厚くもなく、高価でもないので、休日を一これにさいても決して無駄にはならないと考える。手当たり次第に本とふれてそのうち自分の好みを探りあてるといふのも、一つの読書法かもしれないが、そのまえにこの「文学入門」を一読されたほうがよいと私は思つて、推薦の一冊とした。

(教育学部教授)

所蔵館

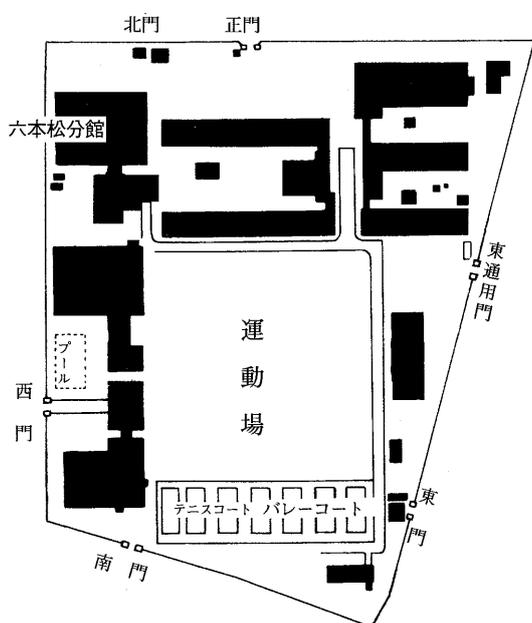
六本松分館 開架文庫棚

中央図書館・医学分館・六本松分館案内

	中央図書館	六本松分館	医学分館
概要	中央図書館の蔵書41万冊の外、理学部蔵書(15万冊)、農学部蔵書(26万冊)、計82万冊 雑誌:7,700タイトル (中央2,600 理2,200 農2,900) 座席数:646席	蔵書数:35万冊 雑誌:4,000タイトル 座席数:724席	蔵書数:29万冊 雑誌:3,400タイトル 座席数:261席
休館日	日曜日、国民の祝日、年末・年始		
	本学記念日(5月11日)		
	月の初日(土曜または日曜日の時は直後の開館日)		
開館時間	曝書・図書点検期間:8月中旬1週間	曝書・図書点検期間:8月中旬,3月下旬	曝書・図書点検期間:8月中旬1週間
	開館準備(4月上旬)		
	月~金 9:00~20:00 (8月は9:00~17:00)	月~金 9:00~20:00	月~金 9:00~21:00
土 9:30~17:00 (8月中は閉館)	土 10:00~16:30	土 9:00~16:30	
貸出	休業・試験期は開館時間が変更されます。		月の初日(土曜または日祝日の時は直後の開館日)は、原則として午前中貸出業務を停止し、1階書庫は閉鎖します。
	5冊 図書15日間、雑誌8日間 ※理・農の方には、所属学部の資料を8冊貸し出します。	5冊 図書15日間、雑誌8日間 ※六本松地区の教官・院生には特別貸出制度があります。	教官 10冊 院生等 5冊 学生 3冊 図書8日間、雑誌2日間

○入館手続:自動入館システムですので、図書館利用者票が必要です。
○全館開架方式(貴重図書、保存書庫等一部を除く)ですので自由に閲覧できます。
○文献複写:所定の手続きで館内資料の複写ができます。

六本松地区



病院地区

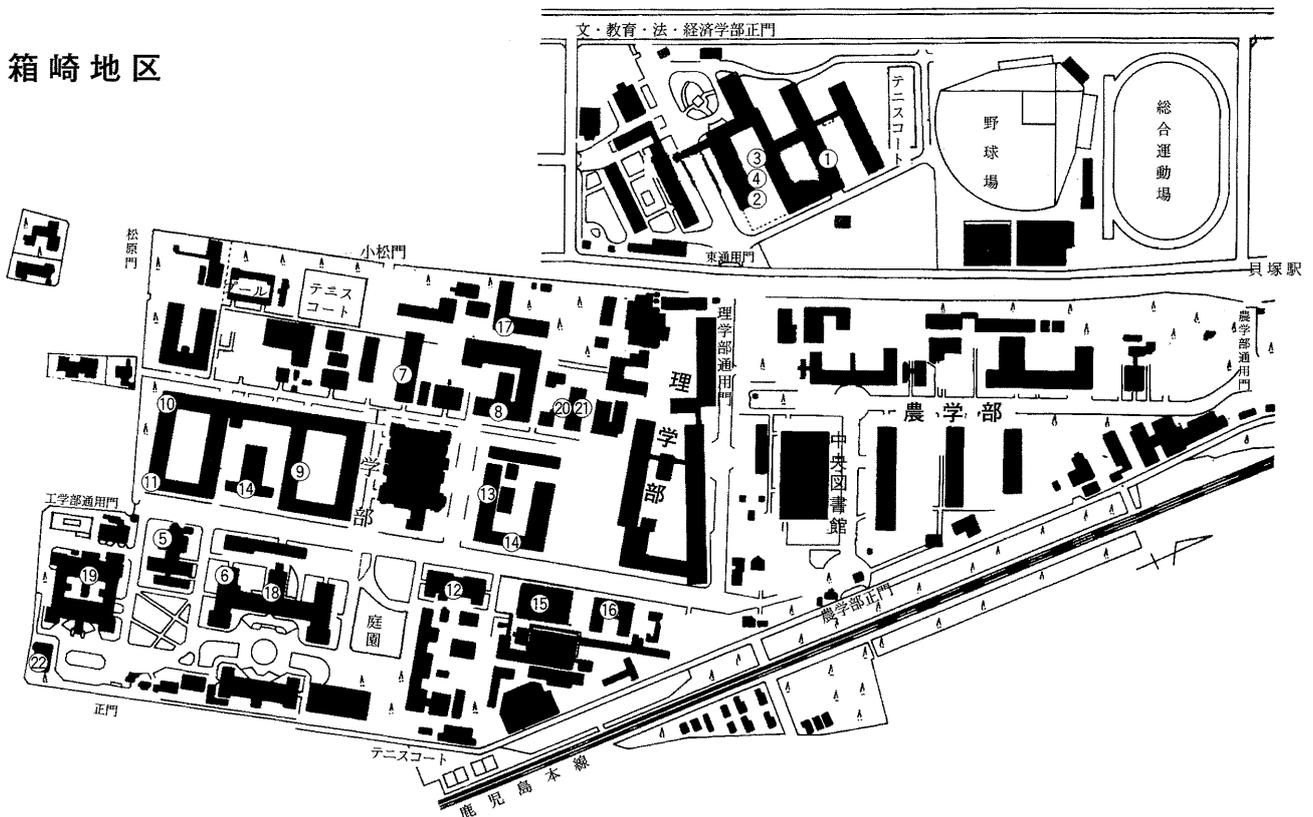


箱崎・病院地区部局図書室案内

	図書室名	利用時間		図書室名	利用時間
1	文学部	9:00～16:30	14	材料工学科	10:00～17:00 注5
2	教育学部	9:00～17:00 注1	15	船舶海洋システム工学科	9:00～17:00
3	法学部	9:00～16:30 注2	16	航空工学科	9:00～17:00
4	経済学部	9:00～16:30 注3	17	応用原子核工学科	9:00～17:00
5	工学部中央図書室	9:00～20:00 注4	18	応用理学教室	9:00～17:00
6	建設都市工学科(土木)	9:00～16:45	19	環境システムセンター	8:30～17:00
7	建設都市工学科(水工)	9:30～16:30	20	中央計数施設	8:30～17:00
8	建築学科	8:30～17:00	21	大型計算機センター	9:00～17:00 注6
9	電気系工学科	9:00～17:00	22	石炭研究資料センター	9:00～16:30
10	機械系工学科	8:30～17:00	23	薬学部	9:00～16:45
11	化学機械工学科	8:30～17:00		理学部図書室	中央図書館内に配置されており、中央図書館と同様の手続きで利用できます。
12	化学系学科	9:00～17:00 注5		農学部図書室	
13	資源工学科	9:00～16:30 注5			

- 九州大学の学生と教職員は、上記各部局図書室の資料の閲覧と借用ができます。
- 利用するには、学生証または身分証明書が必要です。
- 所属部局以外の図書室の資料を借りる場合は、所属部局の図書室で『学内図書相互利用申込書』を発行してもらい持参してください。貸出冊数・期間等は各図書室によって異なります。
- 部局図書室は、土曜日、日曜日、国民の祝日及び年末年始は閉室します。
また、原則として12時から13時まで閉室します。
- 注1 毎月第1木曜日(祭日の場合は次の木曜日)は閉室します。
- 注2 雑誌の利用は複写のみで借用はできません。
- 注3 毎月第2火曜日は閉室します。
- 注4 工学部中央図書室で所蔵している資料は、電気、電子、情報、超伝導、機械、知能、機エネ、化機、応化(機能)応化(分子)、応原学科の1946年以降の外国雑誌です。
- 注5 事前に連絡してください。
- 注6 学生は大学院生のみ利用できます。

箱崎地区



平成6年度 特別図書購入一覽

学部	順位	図書資料名	形態	出版社等	学部	順位	図書資料名	形態	出版社等
文学部	1	明治期刊行図書マイクロ版集成 「語学」部門 ドイツ語 16mm 20リール	マイクロフィルム	丸 善 日 本	経済学部	1	Geschäftsberichte des Deutschen Gewerkschaftsbund. Jg.1950-1990. (ドイツ労働総同盟〔DGB〕活動報告)	オリジナル	Blackwell Pub. イギリス
	2	The history of women in the United States. Ed. by Nancy F. Cott. 20vols. in 28parts. (米国婦人史研究論文集成 全20巻)	オリジナル	K.G. Saur ドイツ		2	Say, L. & M. J. Chailey(dir) Nouveau dictionnaire d'economie politique. (L.セー他「新経済学事典」 初版)	オリジナル	フランス
	3	筆耕園 一唐絵手鑑一 衛藤駿著解説付 彩色版60図、大形本	オリジナル	講談社 日 本		比較社会文化研究科	1	日本帝国国勢一斑 第1回(明治15年)~55回(昭和14年) 全14巻	リプリント
教育学部	1	Environment & Behavior. Vol.13(1981)-25(1993) (環境と行動)	バックナンバー	SAGE アメリカ	2		Royal Commission on Electoral reform and Party Financing. Research Studies. (王立委員会研究報告書)	オリジナル	Dundum Press カナダ
	2	日本近代教育史料大系 第1期 公文記録(一) 太政類典・学制1~5巻、附巻1	リプリント	龍溪書舎 日 本	3		Propaganda IM 2. Weltkrieg-Neue Dokumentationen. (宣伝 世界大戦の新証拠) VHS 7巻	ビデオテープ	Kaiser ドイツ
法学部	1	郵便報知新聞 第5期(明治15年)~第8期(明治18年)	リプリント	柏書房 日 本	中央図書館	1	国立国会図書館蔵書目録 明治期 全8巻	オリジナル	紀伊国屋書店 日 本
	2	Columbia Journal of Environmental Law. Vol.1(1974)-18(1993) (環境法雑誌)	バックナンバー	Franklin Square Overseas, Inc アメリカ		2	IBZ: Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur aus allen Gebieten des Wissens. Vol.29(1993)	バックナンバー	Felix Dietrich Verlag. ドイツ
	3	Columbia Human Rights Law Review. Vol.1(1967)-24(1993) (人権問題研究雑誌)	バックナンバー	Franklin Square Overseas, Inc アメリカ		3	C D - H I A S K '93 (朝日新聞全文記事データベース 93年版)	CD-ROM	日外アソシエーツ 日 本

◇図書館日誌 (平成7年11月~平成8年1月)

- | | |
|---|--|
| <p>11. 1 学術雑誌総合目録データ入力説明会 (九州地区・沖縄地区)</p> <p>7 平成7年度大学図書館職員講習会 (大阪大学) ~10日</p> <p>〃 全学図書系掛長会議</p> <p>〃 附属図書館自己点検・評価委員会ワーキング・グループ会議</p> <p>10 福岡県・佐賀県大学図書館協議会第2回福岡地区研究会 (福岡女子短期大学)</p> <p>13 平成7年度第2回総合目録データベース実務研修会 (学術情報センター) ~12月1日</p> <p>14 図書館職員研修会</p> <p>29 図書館情報編集委員会</p> <p>12. 6 平成7年度国立大学図書館協議会インターネット講習会 (学術情報センター) ~7日</p> <p>7 図書館業務電算機システム推進委員会</p> <p>11 図書館サービスに関する懇談会 (人文社会科学系)</p> <p>12 全学図書系掛長会議</p> <p>14 九州地区大学図書館協議会誌編集委員会会議</p> <p>18 図書館サービスに関する懇談会 (自然科学系)</p> | <p>20 学術情報センター・サービス休止 ~1月8日</p> <p>22 新キャンパス計画専門委員会情報・図書ワーキング・グループ会議</p> <p>25 多機能検索システム仕様選定委員会</p> <p>1. 9 新キャンパス計画専門委員会情報・図書ワーキング・グループ会議</p> <p>11 全学図書系掛長会議</p> <p>17 福岡県・佐賀県大学図書館協議会第3回福岡地区研究会 (第一薬科大学)</p> <p>18 平成7年度国立大学附属図書館事務部長会議 (一橋大学)</p> <p>24 多機能検索システム仕様選定委員会</p> <p>25 図書受入目録業務説明会 (分館関係者対象)</p> <p>〃 分館長会議</p> <p>26 図書受入目録業務説明会 (理系関係者対象)</p> <p>〃 附属図書館商議委員会</p> <p>〃 新キャンパス計画専門委員会情報・図書ワーキング・グループ会議</p> <p>30 図書館情報編集委員会</p> |
|---|--|

《 自 著 紹 介 》

『生物生産と生体防御』

緒方靖哉（農学部教授）

本書は、微生物、植物、昆虫、魚類、鳥類、哺乳類の各種産業用生物について、浸襲する異物あるいはストレスを排除する生体防御機構を解説し、さらに、安定した生物生産のための生体防御機構の活用法と今後の研究の展望を言及している。

『遺伝子ターゲティングの基礎と応用』

緒方靖哉（農学部教授）

本書は、急速に進展しつつある遺伝子ターゲティング技術について解説すると共に、微生物、植物、魚類、哺乳類、人におけるこの技術の利用の現状と将来の展望について言及し、さらにそれらに対応する法の考え方の将来の方向性を議論するものである。

『Geographical Diversity of Isozyme

Genotypes in Barley』

小西猛朗（元農学部教授）

世界の各地域から収集したオオムギ3,000品種に

ついて同位酵素7遺伝子座の遺伝変異を調査し、データ・ベースを構築した。さらに、これらのデータを用いて、オオムギの地理的分化について詳細に検討した。特に、アジア地域における同位酵素遺伝子型の地理的分布から、オオムギのアジアにおける伝播経路についても考察した。

『An Illustrated Book of Helminthic Zoonoses』

宮崎一郎（医学部名誉教授）

1988年、獣医師との共著の形で、「図説人畜共通寄生虫症」と題する800頁余りの本が九大出版会から発行された。その本が日本国際医療団の注目するところとなり、1991年に蠕虫症の部分を英語版にしたのが本書である。第1の目的は上記医療団による東南アジア諸国の教育、研究機関や大きな図書館への寄贈であるが、少数ながら、アフリカ諸国や欧米諸国の上記諸機関へも発送された。とくに英国の専門誌に紹介された結果、欧米諸国の図書館や個人からの注文が、医療団ばかりでなく、著者自身にも寄せられ、これまでに2回の増版を余儀なくされ、現在に至っている。

本学関係者著作寄贈図書

蔵書の充実を図るため、図書館では著作物刊行の節は一部ご寄贈くださるようお願いしております。今回は次の教官からご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

《中央図書館》

宮崎 一郎（医学部名誉教授）

「An illustrated book of helminthic zoonoses」/ Ichiro Miyazaki
International Medical Foundation of Japan, 1991

九州大学法政学会

「法と政治：21世紀への胎動 上・下」

九州大学法政学会編 九州大学出版会 1995

《医学分館》

杉町 圭蔵（医学部）

「急性胃炎と急性胃潰瘍の臨床・その分類と病因」

大岩俊夫・大岩久夫著 杉町圭蔵監修

金原出版 1995

「NEW BED-SIDE MEMO 外科：実地医家のためのノーハウ」

岡留健一郎ほか執筆 杉町圭蔵監修

南山堂 1993

《法学部図書館》

水波 朗（法学部名誉教授）

「自然法：社会・国家・経済の倫理」

J. Messner 著 水波朗ほか訳

創文社 1995

《農学部図書館》

緒方 靖哉（農学部）

「生物生産と生体防御」

緒方靖哉ほか著 村上浩紀ほか編

コロナ社 1995

「遺伝子ターゲティングの基礎と応用」

緒方靖哉・村上浩紀編著

コロナ社 1995

小西 猛朗（元農学部教授）

「Geographical diversity of isozyme genotypes in barley」

by Takeo Konishi

Kyushu University Press, 1995